

名古屋地学会第 311 回例会報告

松岡敬二

日時： 2015 年 11 月 14 日 (土) 9 時 15 分～15 時 30 分

場所： 佐久島

参加者： 10 名

西尾市一色町の佐久島行き船乗り場に参加者が集合した。暴風雨のため欠航を心配したが、佐久島に向けて定刻通り 9 時 30 分に出港した。一色港を出ると大いに船が揺れるなか約 25 分で佐久島東港に到着した。以下は巡検地の記録である。

(1) 東港渡船場から入ヶ浦

雨具の装備を整え、入ヶ浦の海岸へ向かった。海岸の崖には砂岩泥岩互層からなる師崎層群日間賀層が露出している。露頭では、正断層や層理面上の生痕化石(管状の生痕属 *Thalassanoïdes*) が観察できた(図 1, 2)。風雨が強いために、東港の渡船場待合室に引き返した。そこでは簡単な佐久島の地質や午後の予定を説明し、昼食にした。昼食後に個人的に渡船場横の浜で生き物の調査をし、これまで佐久島から報告のなかったマツモトウロコガイ *Paraborniola matsumotoi* を採集した(図 3)。本種は、環境省 Red Data Book の準絶滅危惧 (NT) に評価されている。

(2) 丹梨海岸から新谷海岸

東港から山を越え西側の海岸、丹梨海岸に向かった。途中の小道の脇ではイセノナミマイマイ *Euhadra eoa communisiformis* が多数這っていた。丹梨海岸の南側では、海崖と波蝕棚上に見られる砂岩泥岩互層中の層間褶曲や断層に沿って見られる砂岩岩脈を観察した(図 4, 5)。また、海崖を背にして参加者の記念撮影をした(図 6)。

新谷海岸は、「紫色の砂浜」として知られる美しい海岸である(図 7)。砂浜はヨーロッパ原産のムラサキガイ *Mytilus galloprovincialis* の貝殻が砕かれ堆積している。浜の淡い紫色は、ムラサキガイの殻外側の色と、殻をつくる真珠層の白色とが醸し出したものである。

(3) 筒島

筒島は佐久島と堤防により陸続きとなっている。佐久島と同じく日間賀層の砂岩泥岩互層からできており、化石が含まれている。また、岸近くには穿孔貝による孔のあいた礫が散在していた。島の中央には佐久島弁財天の社がある。その前には、願い事を書いて奉納できる「願い石」の塚があった。また、師崎層群の砂岩泥岩互層の台座の上には侵食と風化により兜型になった兜岩が祀られていた(図 8)。



写真 1 正断層



写真 2 管状生痕



写真3 マツモトウロコガイ



写真4 層間異常



写真5 砂岩岩脈



写真6 参加者 (大谷宣人氏撮影)



写真7 新谷海岸



写真8 兜岩